

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

アザミウマ類、コナジラミ類の施設栽培終了後の 野外への飛び出し防止対策の徹底について

施設栽培のキュウリ、トマト等で発生したアザミウマ類やコナジラミ類は、栽培終了後に施設から飛び出すと、野外で増殖します。その後、次作において施設に再び侵入し、秋期の発生の原因となります。また、これら害虫はウイルス病を媒介するため、その伝染環を断ち切るためには、**栽培終了時に媒介虫を施設内で死滅させることが重要です。**

については、下記を参考に対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生状況

5月19～22日に実施した定期調査の結果は、以下のとおりであった。

- 1) キュウリにおけるアザミウマ類の発生株率は50.0%（平成13.2%）であり、平成より多かった。コナジラミ類の発生株率は36.3%（平成9.5%）であり、平成より多かった。
- 2) トマトにおけるコナジラミ類の発生株率は、22.0%（平成17.8%）であり、平成並であった。

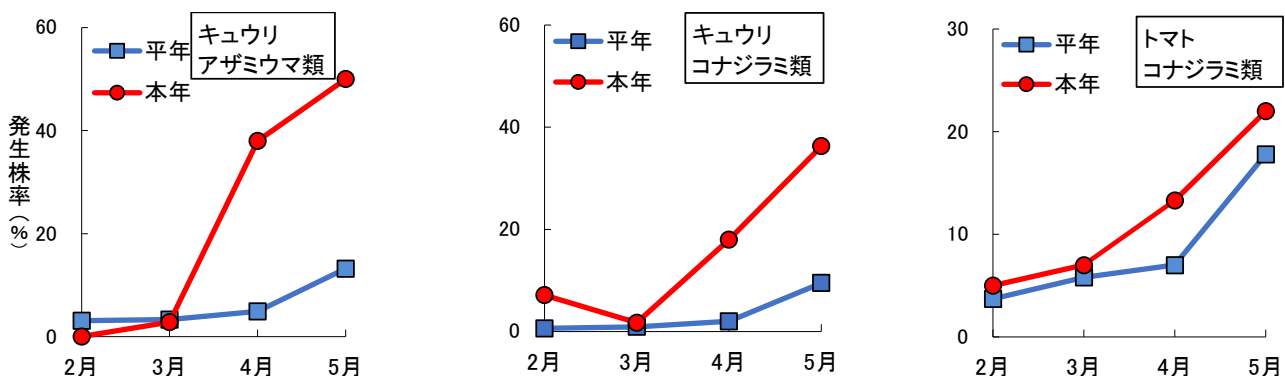


図1 キュウリ、トマトでのコナジラミ類、アザミウマ類の発生推移

【参考データ】

病害虫診断における主な虫媒伝染性ウイルス病の月別診断件数^{注)}

病名（媒介虫名）	8月	9月	10月	11月	12月
キュウリ黄化えそ病 （メジロアザミウマ）	13	36	34	14	11
キュウリ退緑黄化病 （メジロコナジラミ）	6	13	16	2	0
トマト黄化葉巻病 （メジロコナジラミ）	0	14	4	3	1
トマト黄化病 （コナジラミ類）	0	1	1	3	1

注）平成20～令和6年度の合計件数

- ・ 虫媒ウイルス病の診断件数は9～10月が多い。
- ・ その要因として、野外で一時的に生息、増殖した媒介虫が、秋になって施設内へ侵入するためと考えられる。

2. 防除対策

- 1) アザミウマ類やコナジラミ類が施設から飛び出ると、野外で増殖し、次作の施設へ侵入する（図2）。これら害虫の確実な死滅と、ウイルス病罹病株を確実に枯死させるために、十分な期間を確保し、施設の密閉処理（蒸し込み）を必ず行う（図3）。
- 2) アザミウマ類やコナジラミ類は、キュウリ、トマトだけでなく、ナスなどの他の施設野菜類、花き類など多くの作物に寄生するため、地域全体で一体となって飛び出し防止等の対策を行う。
- 3) 施設内から飛び出したアザミウマ類やコナジラミ類は、近くの雑草などに寄生して増殖し、またいくつかの雑草はウイルス病に感染することが分かっているため、増殖源又は感染源となるほ場周辺の雑草は徹底して除去する。



図2 アザミウマ類、コナジラミ類の主な生息場所（イメージ図）

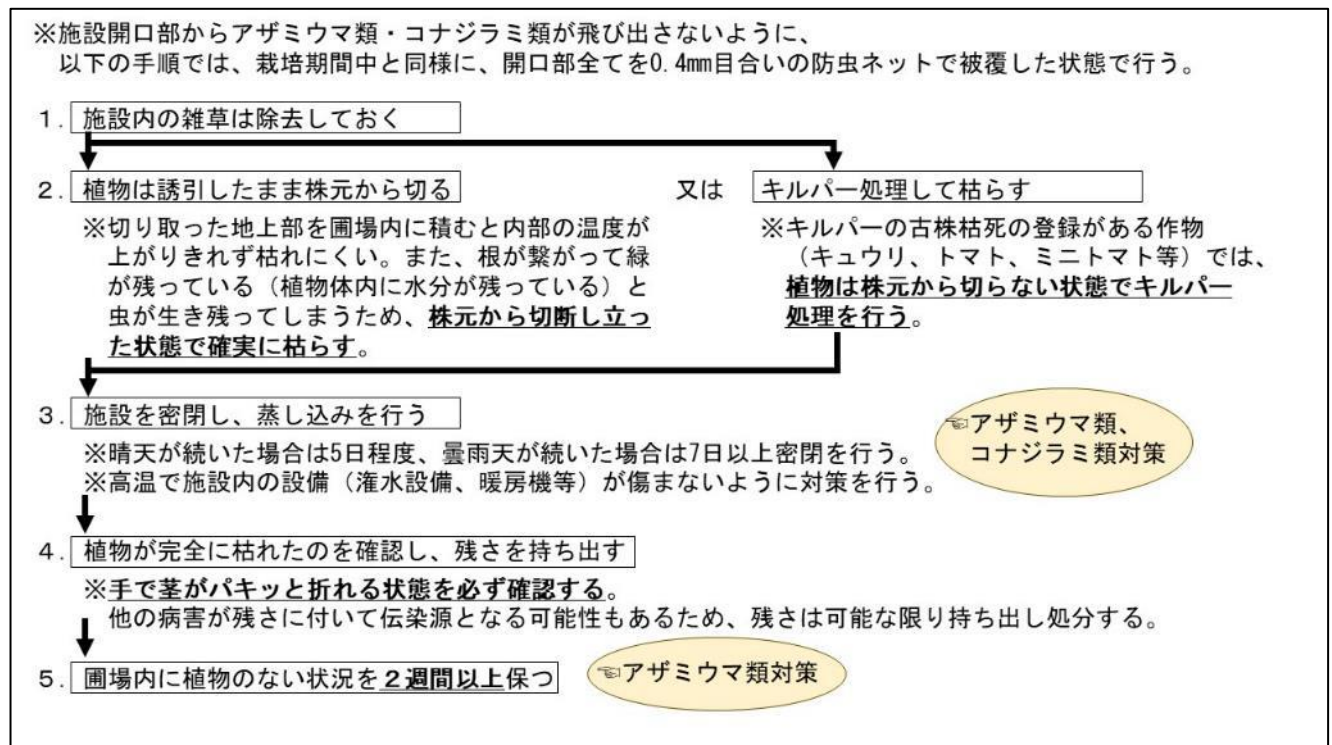


図3 施設の密閉処理（蒸し込み）の手順

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

